

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	わらび学園		
○保護者評価実施期間		令和7年11月17日	～
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間		令和7年11月4日	～
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○訪問先施設評価実施期間		令和7年11月17日	～
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	2	(回答数) 1
○事業者向け自己評価表作成日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育所等訪問支援計画作成プロセスにおいて、お子様や保護者様のニーズや課題について客観的に分析がなされた上で、保育所等訪問支援計画が作成されていること。	連絡帳や面談等を通して、日頃から保護者様の意向や願いの把握を心がけています。お子様の意志に関しては、発達段階的にその表出や意識すること自体、難しい場合がありますので、お子様との強固な信頼関係を基盤に、表情や仕草、好み、行動等から丁寧に意思を推し測るようにし、それらが着実に反映された保育所等訪問支援計画となるよう努めています。	お子様との信頼関係の構築、意思形成支援、意思表示支援、意思表明支援、意思実現支援を順を追って細やかに積み上げていくことで、お子様の意思の尊重・最善の利益の優先考慮の実現を目指していきたいと思います。
2	訪問先施設と密な連携が取れていること	お子様の成長段階や特性に応じた支援を共有し、両者で話し合うことで、お子様の姿を、一方向ではなく、多面的に捉えることができています。その結果、よりお子様の実情に即した支援体制を構築することができています。	話し合いを密に行うことで、困り事や支援ポイントが更に明確になると思われます。訪問先施設から何気無い時にも、気軽に相談していただけるよう、支援スキルを高めた上で、横のつながりを大切にした訪問先施設との温かい信頼関係作りに努めたいと思います。
3	安全計画に沿って、お子様の安心安全が担保された上で支援が行われているということ	お子様にとって安心安全があってこそ、支援は有益なものとして機能しますので、お子様を取り巻くこと全てにおいて、職員一同、安心安全を保障するという視点、観点を持つことを常とっています。	社会通念等の変遷によって、危険とされることやその認識が変化する場合があります。時世の情報等に敏感に注意を払うと共に、密な情報収集、把握に努め、その時々で必要とされる安全対策を漏れなく講じたいと思います。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援を行な際の頻度や時間について保護者様との相談の機会が持てていないこと	受給者証の支給量に則って、訪問頻度等を決定していますが、その目安として、お子様に適した支援の提供のため、お子様の実情を知る在籍園である訪問先施設の情報を優先することがほとんどです。	訪問後は保護者様と訪問先施設でのお子様の様子や支援方法等について情報共有の機会を持てるよう心がけているところですが、今後はより訪問支援の充実度、達成度を上げるためにも、訪問頻度や時間についても保護者様との相談の機会が持てるよう努めたいと思います。
2	事業の目的の説明が十分ではないこと	概要については説明できていますが、事業の趣旨や目的についてはイメージが沸きづらいこともあります。実際に保育所等訪問支援での訪問先施設への訪問が始まることで、少しづつ趣旨や目的についての理解を深めていくといっているという現状があります。	当初から、ご理解していただけるよう、例を挙げる等し、それぞれの保護者様に応じたより具体的でわかりやすい説明に努めたいと思います。また、園においても、保護者様への適切な説明となるよう保育所等訪問支援に関する知識、知見を更に深めていきたいと思います。
3	利用者負担や、運営規程の説明が十分でないこと	事業開始時に説明は行なっていますが、説明の一連の流れの中に埋没してしまっている感があります。	説明の際はメリハリをつけるようにし、利用者負担や運営規程に関して、より保護者様の印象に残るよう心がけたいと思います。